

アマダイ釣り

海の安全推進アドバイザー 小野信昭

冬場における人気ターゲットのアマダイは北関東から西日本、日本海西部から釜山沖、東シナ海に生息し、タイを細長くしたような体型で、色はタイと同じく美しい桜色をしている魚です。



冬の人気ターゲット、アマダイ



アマダイの松笠揚げ

水深 30～150 メートルの砂泥地に巣穴を掘って生息し、甲殻類や管虫類を捕食します。巣穴から出て泳ぎ回るとしても大して浮上せず遊泳層は海底からせいぜい 2 メートルの範囲となります。

ボートからアマダイを狙うには片テンビンの吹き流し仕掛けでオキアミをエサにする釣り方が一般的ですが、近年はルアー(疑似エサ)で狙う人も増えてきました。

アマダイは海底付近に生息する魚なので魚群探知機ではアマダイの姿を捉えづらいのでボートを移動させながら、棲息している場所を探っていく釣りになります。そこで重要となるのが船速で、時速 0.5 ノット以下で流す必要があります。アマダイの様に海底付近に生息する魚は上から降りてくるエサには活発に摂餌しますが、横方向へ移動するエサに対しては摂餌があまり得意ではありません。ボートが速く流れ過ぎるとアマダイはエサの動きに追い付くことができなくなるためです。

釣り船のようにスパンカーを装備していれば舳先を風上側へ向け、推進力を調整することでゆっくり流すことが可能になるとともに糸を立てた釣りが行えるのでアマダイを釣りやすい状況を作ることができます。

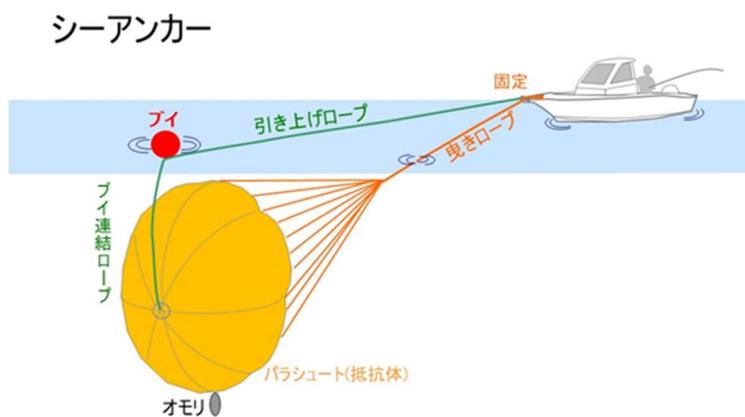
スパンカーを装備しないボートで時速 0.5 ノット以下の船速を実現するためにはいくつかの方法がありますが、主流となっているのはシーアンカーの使用です。シーアンカーはパラシュート(抵抗体)が水の抵抗を受けることでブレーキ作用が働き、ボートの流れるスピードを減速してくれる効果が得られるのでアマダイ釣りでは大変有効なアイテムとなります。



シーアンカー投入

大変便利で重宝するシーアンカーではありますが、ボートの流れる方向や速さは風任せ、潮任せとなるので使用上の注意点がいくつかあります。

- ・他船の往来が多い海域や狭いエリアでは使用しない
- ・使用中のシーアンカーの存在が他船から分かるようにブイを浮かべる
- ・速やかな回収が行えるように引き上げ(回収)ロープをセットする



シーアンカー説明図

シーアンカーを使用することで船長自身も操船から解放され、乗船者と一緒になって釣りを行えるかもしれませんが、しかしながら、船長は釣りに専念するのではなく、常に見張りを励行しなければなりません。